



**鋼製壁下地材
SQ-PowerBar**

施工要領書
(壁高さが 5mを超える場合)

Ver.01



安全に関するご注意(取扱注意事項)

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

1. 搬入時、資材の落下やずり落ちによるケガを防ぎ、腰を痛めないようにしてください。(現場での小運搬は無理のないようにご注意ください。)
2. 鋼材の切り口は鋭利であり、また、切断時にはバリも生じ易いので、手を傷つけないようにしてください。(軍手等の保護手袋を着用してください。)
3. 素手による取扱い、または素肌の露出部はケガをする恐れがありますのでご注意ください。(素肌をなるべく避けるような服装にしてください。)
4. 梱包用スチールバンドおよび針金等の切断時のはねあがり等によるケガが生じますのでご注意ください。(梱包をとく場合は状況判断して作業をしてください。)
5. 搬入時や保管時について次のような事項に注意してください。
 - ① 運搬に際しては衝撃を与えたり、荷姿を崩したりしないように丁寧に取扱ってください。
 - ② 荷受け時には、注文書と現品を照合して所定の長さ、種類、数量が搬入されているか確認を行ってください。
 - ③ 変形、損傷の有無の確認を行い、検収してください。
 - ④ 原則として、屋内の湿気の少ない場所に保管してください。(やむを得ず屋外に置く場合には防水シートをかけてください。)
 - ⑤ 製品は地面に直接置かず、平らなところにかい木をして水平に置き、積み重ねる場合は間木を施して荷崩れを起こさないように置いてください。
 - ⑥ クレーン荷揚げ等の運搬に関しては、布製平型吊りバンドを使用するなど、製品の角や表面の損傷に注意してください。また、製品の上に重いものを乗せなでください。
6. 壁に資材を立てかけたりすると倒壊により思わぬケガをすることがあるので、壁には資材を立てかけないでください。
7. 壁に重量物を固定すると落下や脱落によりケガをしたり、壁面周辺を破損したりすることがありますので、原則、設置しないでください。
8. その他、安全使用上問題のある行為は行わないでください。

目 次

第 1 章 一般事項

- 1-1 適用範囲
- 1-2 製品の種類

第 2 章 標準施工要領

- 2-1 一般事項
- 2-2 スタッドの発注
- 2-3 スタッドのピッチ
- 2-4 ランナーの固定
- 2-5 スタッドの配置
- 2-6 振れ止めの設置
- 2-7 端部の S Q - P o w e r B a r の固定
- 2-8 施工確認

第1章 一般事項

1-1 適用範囲

この施工要領書は、鋼製壁下地材「SQ-PowerBar」の標準施工方法について規定します。

本施工要領書は壁高さ5mを越える壁に適用します。

1-2 製品の種類

「SQ-PowerBar」および関連部材で壁高さ5m以上に適用する部材は表1～3のとおりです。

表1 SQ-PowerBar

部材名	板厚	W (mm)	H (mm)	適合振れ止め
SQ-PowerBar45100	0.45mm	45	100	SQチャンネルC-38
SQ-PowerBar45100 (1.0)	1.0mm			SQチャンネルC-38
SQ-PowerBar45100(1.2)	1.2mm			SQチャンネルC-38

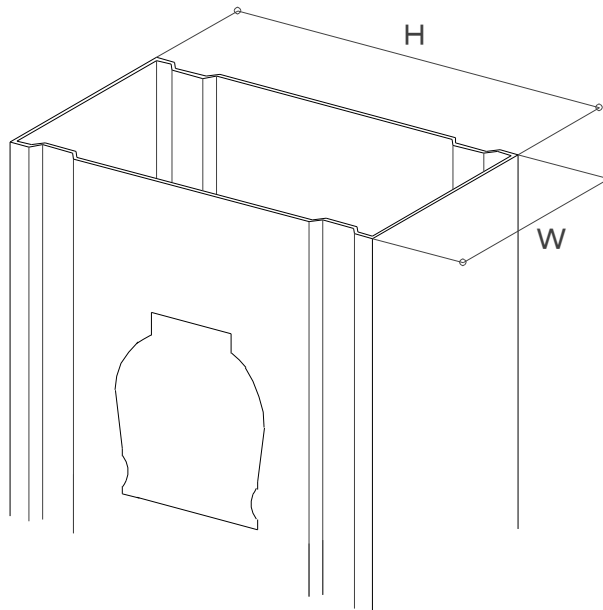


表2 振れ止め

部材名	板厚	W (mm)	H (mm)
SQチャンネルC-38	0.6mm	38	12

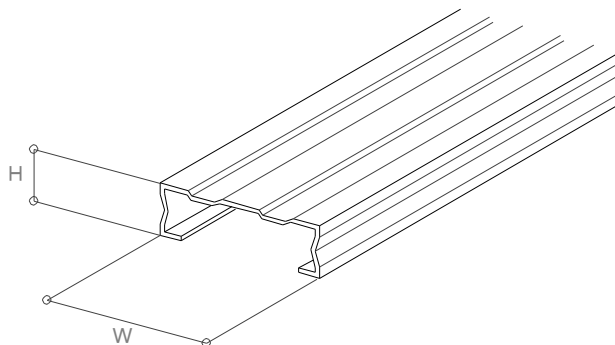
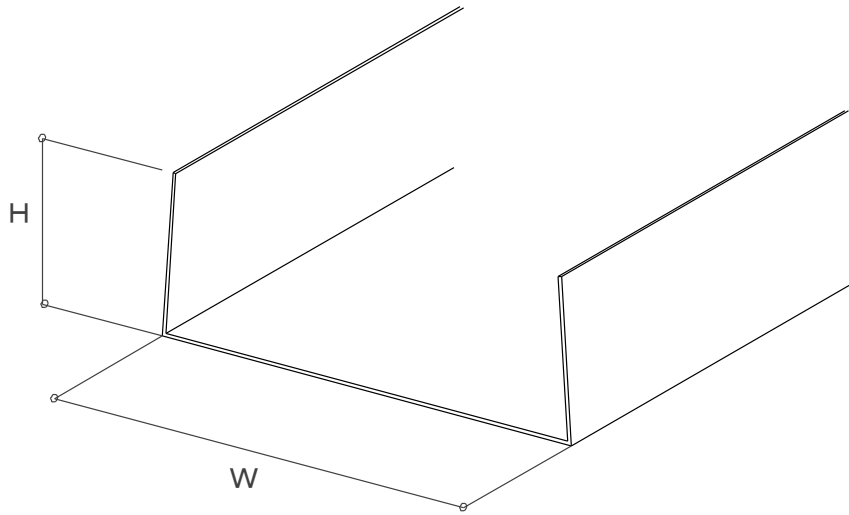


表3 ランナー

部材名	W (mm)	H (mm)
100 ランナー	102	35
	102	40
	103	40



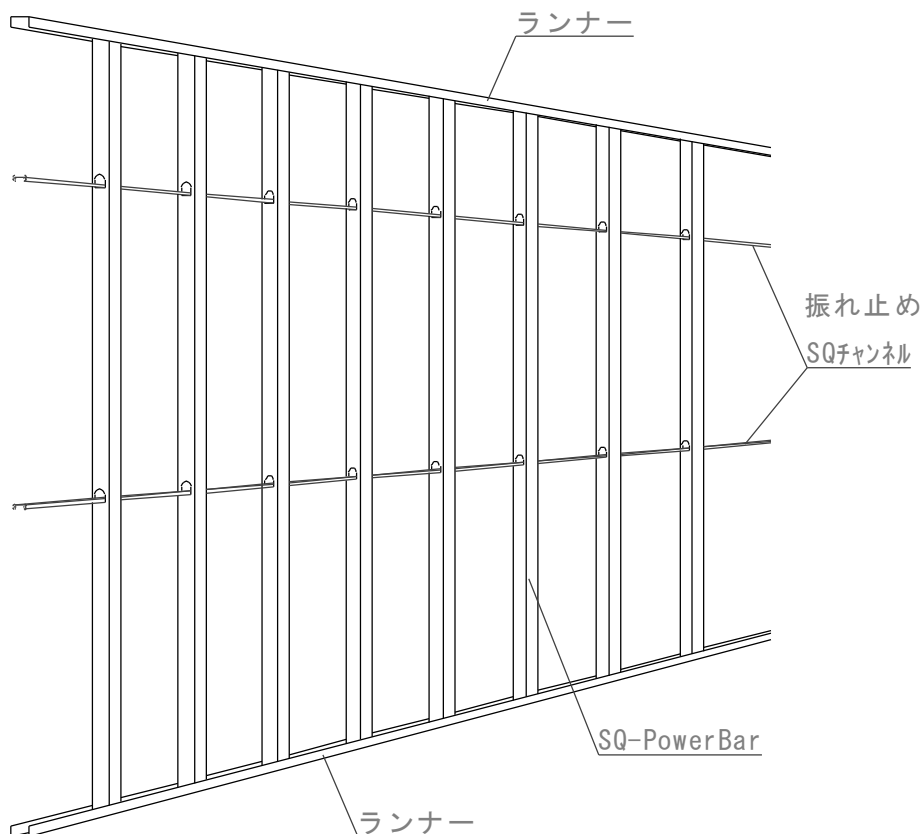
第2章 標準施工要領

2-1 一般事項

施工における一般的な事項については、「SQ工法施工要領書」および「標準施工要領書」に準じます。

なおSQ-Power BarはJIS規格外品です。建築図書にJIS規格が指定されている場合や公共建築工事標準仕様書が採用されている場合にSQ-Power Barを使用するには管理者の事前の承認が必要です。

またSQ-Power Barによる工法では溶接による接合は不可とします。



2-2 部材の選定

5mを超える壁の施工に当たっては、事前に計算を行い、使用する部材、ピッチを選定します。

計算を行う際には、管理者と設計用水平震度、許容変位量等の指示をもらい、また計算結果については管理者の承認後に材料の発注を行います。

壁の許容変形量については仕上材の剥落を考慮して変形追従性について確認するようにしてください。

なお特に指示がない場合は下記の条件で計算します。

設計用水平震度 1.0

地震時の慣性力による変形の許容変形量 壁高さの1/200以下

耐面外力 150kg/m

耐面外力による変形の許容変形量 壁高さの1/200以下

2-2 スタッドの発注

SQ-PowerBarは振れ止めを通す穴が開いています。特に指示がない場合はスタッド下部から1200mmピッチで穴を開けます。なお上部ランナーより400mm以内に穴が来るときは、省略します。(図1)

スタッドの長さは上部ランナー底部から10mm以内になるように発注してください。(図2) 5mを超える壁に適用する45×100サイズのSQ-PowerBarは板厚が3種類あるので注意してください。

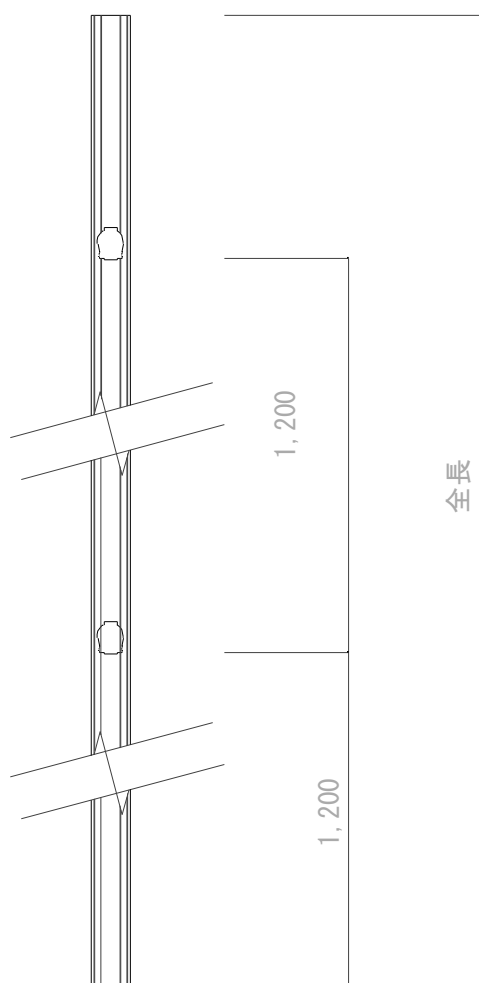


図 1

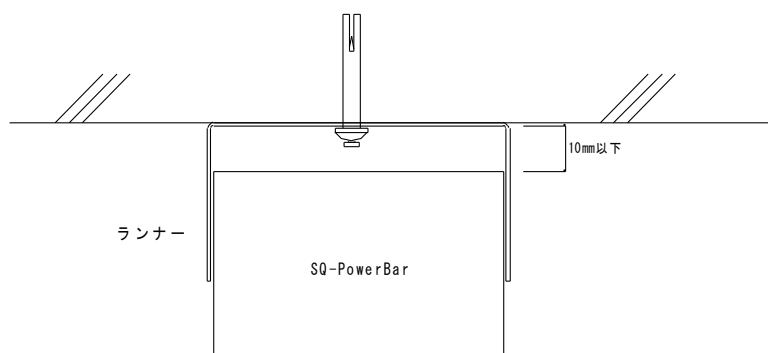


図 2

2-3 スタッドのピッチ

スタッドのピッチは基本的に二重貼りの場合は455mmピッチ、単層貼りは、303mmピッチとしますが特記がある場合はそれに従います。また強度の問題によりピッチを変える場合があります。事前の打ち合わせを行い管理者と確認してください。

2-4 ランナーの固定

計算結果より選定されたランナーおよび固定ピッチを守ってランナーを躯体に固定します。

ランナーを固定するビスは計算に規定してある強度のものを使用します。

下部ランナーを固定する場合は所定の強度があれば打ち込みピンを使用して構いませんが、上部ランナーについては、アンカー等の引き抜き防止効果があるものに限定します。推奨製品として日本パワーファスニング社「タップスター」をあげます。

2-5 スタッドの配置

SQ-PowerBarは上下があるので注意します。穴が図3の向きが正常です。

スタッドは後から振れ止めを通すことを考慮のして設置してください。

振れ止めは施工する壁の側面から通します。そのため施工する壁の両側が壁の場合は所定の位置にスタッドを配置すると振れ止めが通せなくなるので、図4のように片側によせておいて、振れ止めを通したあとにスタッドを所定の場所に移動します。

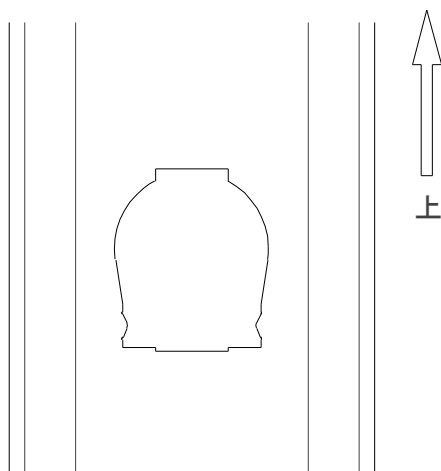


図 3

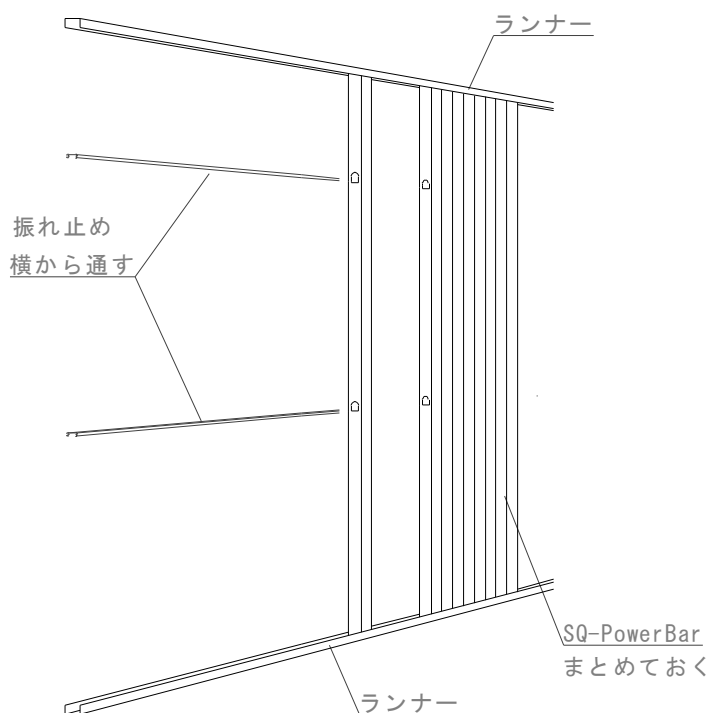


図 4

2-6 振れ止めの設置

各SQ-PowerBarに適合した振れ止めを選択してください。

SQ-PowerBarを所定の場所に設置後に振れ止めを固定します。

その後、振れ止めを図5のように穴の凸部に確実にいれます。

チャンネルの向きは口が開いている部分が上下どちらでも構いませんが口が開いている方

を下向きにしたほうが入れやすいです。

振れ止めをジョイントする場合は SQ-チャンネル用ジョイントを使用して、必要な場合はビスにより接合します。

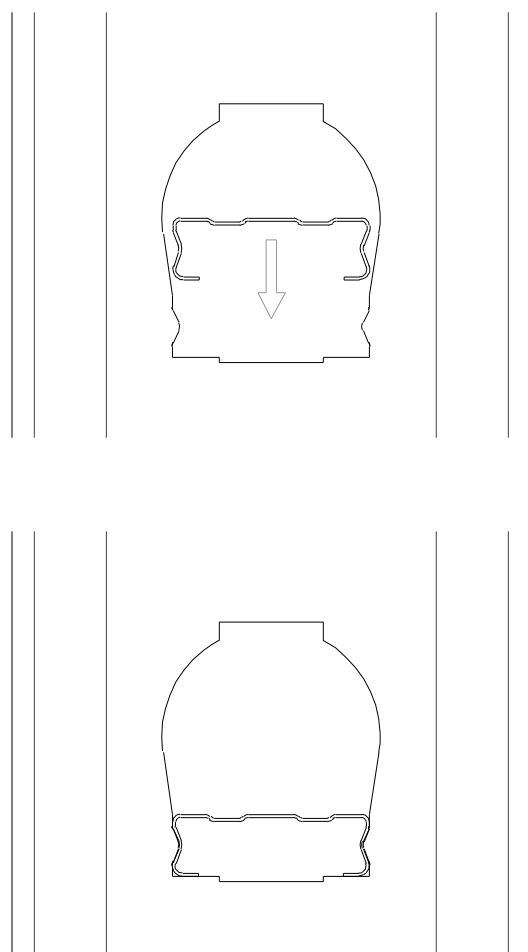


図 5

2-7 端部のSQ-Power Barの固定

施工した壁の両端部のSQ-Power Barは確実に固定しないと、クロスの浮きや切れの原因となります。

① 接合する壁が躯体の場合

図のように穴の凸部が無い面を躯体側にしますSQ-Power Barに $\phi 15$ 程度の穴を600mmピッチ以内でドリルにより明け内側より固定ピン等により躯体に固定します。

(図 6)

床先行工法の場合は下部ランナーより200mm程度の位置も固定します。

② 接合する壁が軽量下地の場合

事前に接合する壁下地にスタッドを入れておき、そのスタッドに固定します。固定には薄板鉄板用ビスを使用します。ピッチ等は①と同じとします。

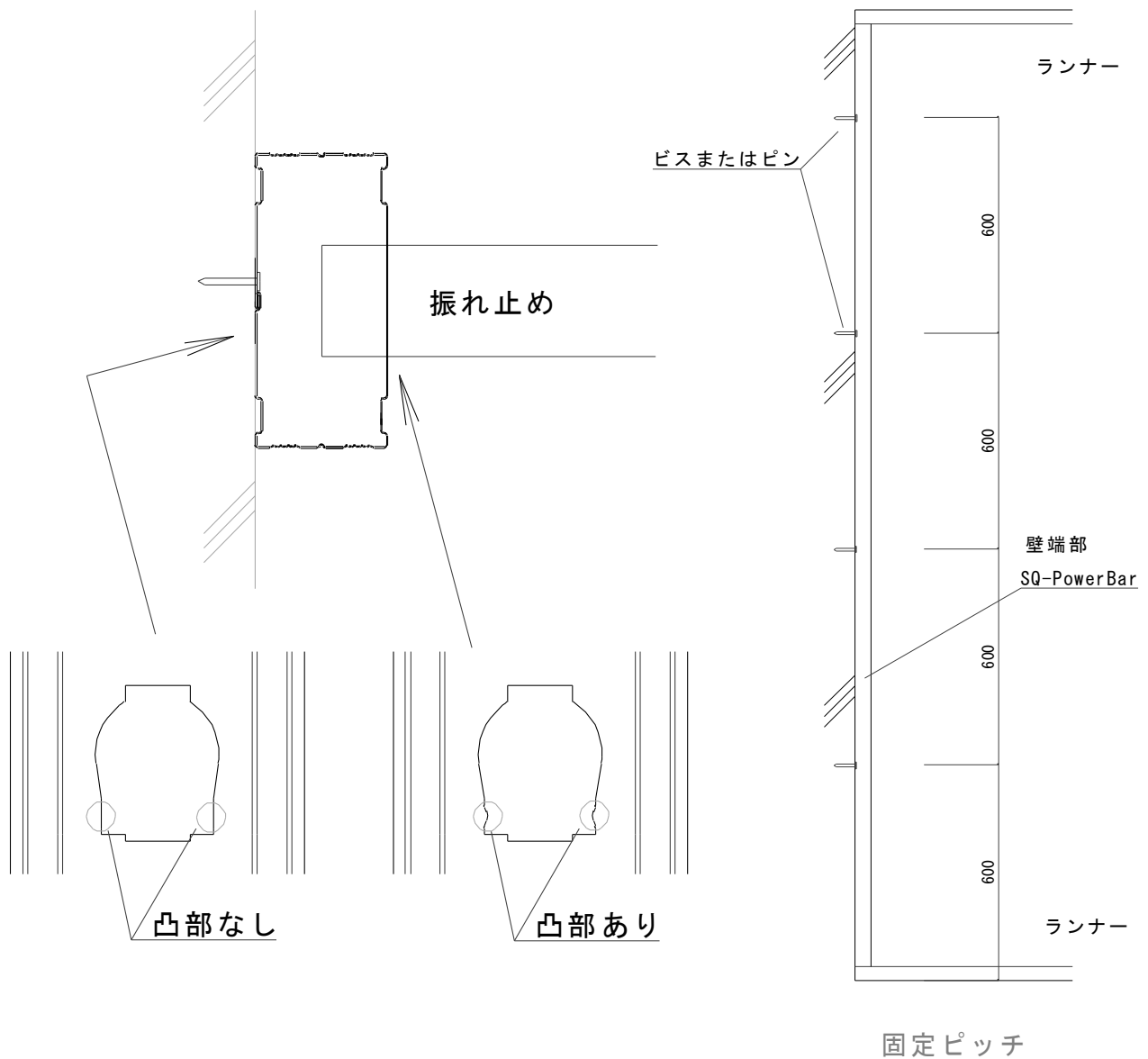


図 6

2-8 施工確認

施工後、SQ-PowerBarのピッチ、振れ止めの固定が出来ているかを確認する。また下地を軽く揺すってみて、音なりが発生しないか確認する。音なりがする場合はビスによる固定等の処置をする。

必要に応じて施工責任者または管理責任者の確認を受け次工程にうつる。

■発行／株式会社桐井製作所 開発部

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-1-1

帝国ホテルタワー 18 階

● お問合せ窓口TEL. (03) 3539-6644

本書からの無断の複製はかたくお断りします。この
施工要領書の内容は、2021年6月現在のものです。
商品等改良のため予告なしに規格その他を変更する
ことがありますので、あらかじめご了承ください。